

### (1) JTS事業

No.1	事業名： 委託開発事業
もともなった研究シーズ： 長期保存病理検体の染色体解析の新技术について	
研究者(所属、役職)： 浜松医科大学 梶村春彦	
もともなったR S P活動： 育成試験 平成13年度	
参加研究機関(企業含む)： 常光㈱	
<p>研究概要：FISH法においてマイクロ波を照射するという新技术を導入することにより劇的に改善する手法を開発している。長期保存された胃癌の染色体異常を検出する方法を開発する事を目的とする。この手法を適用し肺がんとその前がん病変における染色体異常を検討する。</p>	

No.2	事業名： CREST事業
もともなった研究シーズ： インフルエンザウイルスの変異機構の解明と変異を克服した次世代抗インフルエンザ薬の開発	
研究者(所属、役職)： 静岡県立大学 鈴木康夫	
もともなったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)：	
<p>研究概要：ウイルスの変異に関する基礎研究を基に、天然のウイルス受容体(特殊なシアロ糖鎖およびその誘導体であることをすでに解明している)を模倣した人工受容体素材を創製し、これによるウイルスの変異を克服した次世代の抗インフルエンザ薬、ワクチン、インフルエンザウイルスの超簡単・迅速診断薬等に関する研究を行う。</p>	

(2) 文部科学省関連事業（除くJTS事業）

No.1	事業名： 革新的技術開発研究推進費事業
資金を出す機関： 文部科学省 予算規模： 事業期間： 平成14年度～平成19年度	
もとになった研究シーズ： インフルエンザウイルスの変異機構の解明と変異を克服した次世代抗インフルエンザ薬の開発	
研究者（所属、役職）： 静岡県立大学 鈴木康夫	
もとになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関（企業含む）：	
<p>研究概要：ウイルスの変異に関する基礎研究を基に、天然のウイルス受容体（特殊なシアロ糖鎖およびその誘導体であることをすでに解明している）を模擬した人工受容体素材を創製し、これによるウイルスの変異を克服した次世代の抗インフルエンザ薬、ワクチン、インフルエンザウイルスの超簡単・迅速診断薬等に関する研究を行う。</p>	

No.2	事業名： 大学発ベンチャー創出推進事業
資金を出す機関： 文部科学省 予算規模： 事業期間： 平成15年度～平成17年度	
もとになった研究シーズ： 個別対応型三次元血管モデルの作成	
研究者（所属、役職）： 浜松医科大学 稲川正一	
もとになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関（企業含む）：	
<p>研究概要：最近の医療画像技術では、3D-CTAngiography、3D-MR、Rotational Angiography等で患者の個別血管三次元情報を日常的に得られるようになった。近年では従来の外科手術に依らず経皮的に血管内にカテーテルを挿入し、動脈瘤内へのコイル塞栓術、動静脈奇形の塞栓術などが行われるようになった。これらの治療のためには術前に病的血管の大きさや形状、血流などを把握することが重要である。それに対し現状では、得られた三次元情報を二次元平面上のモニターや写真で検討している。得られた三次元情報を基にして、立体模型を製作し医師の治療前における検討および治療方法の患者に対する説明と同意に、安価な立体模型を提供しようとするものである。</p>	

(3) 経済産業省関係事業 (含中小企業庁、NEDO等)

No.1	事業名： 課題対応新技術研究開発事業
資金を出す機関： 中小企業総合事業団 予算規模： 事業期間： 平成13年	
もともになった研究シーズ： セキュアな医用画像コラボレーションシステムの実用化研究	
研究者(所属、役職)： 静岡大学 水野忠則・西垣正勝	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)： (株)アールテック・浜松医科大学	
研究概要：実用的な地域医療連携システムの構築をめざす。病院間あるいは病院・開業医間の医療情報ネットワークを、汎用のパソコンとインターネット回線によって安価で使い勝手のよいシステムとして実現する。患者の医療情報を汎用回線に乗せるにあたってのセキュリティ確保も必須である。	

No.2	事業名： 中小ITベンチャー支援事業
資金を出す機関： IPA 予算規模： 事業期間： 平成15年	
もともになった研究シーズ： セキュアな医用画像コラボレーションシステムの実用化研究	
研究者(所属、役職)： 静岡大学 水野忠則・西垣正勝	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)： (株)アールテック・浜松医科大学	
研究概要：実用的な地域医療連携システムの構築をめざす。病院間あるいは病院・開業医間の医療情報ネットワークを、汎用のパソコンとインターネット回線によって安価で使い勝手のよいシステムとして実現する。患者の医療情報を汎用回線に乗せるにあたってのセキュリティ確保も必須である。	

No.3	事業名： マッチングファンド事業(NEDO、平成15年)
資金を出す機関： NEDO	
予算規模：	
事業期間： 平成15年度	
もともになった研究シーズ： バイオフィウリング防止用電子制菌システム	
研究者(所属、役職)： 静岡大学 須藤雅夫	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)： 浜松科学技術研究振興会、オーム電気(株)	
<p>研究概要：機械工場における切削油処理について、工場内環境改善を目指し取り組む。</p>	

No.4	事業名： 産業技術研究助成事業
資金を出す機関： NEDO	
予算規模：	
事業期間： 平成14年度～平成16年度	
もともになった研究シーズ： 気相拡散プロセスによるキャパシタ用複合電極新設計法の開発と評価	
研究者(所属、役職)： 静岡大学 岡島敬一	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)：	
<p>研究概要：二次電池はエネルギー密度が高いもののパワー密度が低い。また、充放電サイクル寿命にも不満がある。一方、キャパシタはパワー密度、サイクル寿命が優れているが、エネルギー密度が足りない。キャパシタの長所を生かしたままエネルギー密度を向上させることを目標とする。擬似容量の付加によりそれをめざす。</p>	

No.5	事業名： 地域新生コンソーシアム事業
資金を出す機関： 経済産業省	
予算規模：	
事業期間： 平成14年度～平成15年度	
もともなった研究シーズ： 個別対応型三次元血管モデルの作成	
研究者(所属、役職)： 浜松医科大学 稲川正一	
もともなったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)： (株)アールテック	
<p>研究概要：最近の医療画像技術では、3D-CTAngiography、3D-MR、Rotational Angiography等で患者の個別血管三次元情報を日常的に得られるようになった。近年では従来の外科手術に依らず経皮的に血管内にカテーテルを挿入し、動脈瘤内へのコイル塞栓術、動静脈奇形の塞栓術などが行われるようになった。これらの治療のためには術前に病的血管の大きさや形状、血流などを把握することが重要である。それに対し現状では、得られた三次元情報を二次元平面上のモニターや写真で検討している。得られた三次元情報を基にして、立体模型を製作し医師の治療前における検討および治療方法の患者に対する説明と同意に、安価な立体模型を提供しようとするものである。</p>	

No.6	事業名： 地域新生コンソーシアム事業
資金を出す機関： 経済産業省	
予算規模：	
事業期間： 平成16年度～平成17年度	
もともなった研究シーズ： マイクロ波プラズマを用いる樹脂製包装容器内滅菌に関する研究	
研究者(所属、役職)： 静岡大学 永津雅昭	
もともなったR S P活動： 育成試験 平成16年度	
参加研究機関(企業含む)： ジーマ(株)	
<p>研究概要：これまで開発を進めてきた2.45GHzマイクロ波を励起源とするプラズマプロセス用大面積プラズマ装置を医療分野の滅菌技術へ応用する技術開発を育成試験の研究テーマとするもので、将来的には幅広いユーザーからのニーズに応えうるマイクロ波プラズマを用いた高速滅菌装置の実用化を目的としている。</p>	

(4) その他の省庁関係事業

No.1	事業名： 創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業
資金を出す機関： ヒューマンサイエンス振興財団	
予算規模：	
事業期間： 平成13年度～平成15年度	
もともになった研究シーズ： インフルエンザウイルスの変異機構の解明と変異を克服した次世代抗インフルエンザ薬の開発	
研究者(所属、役職)： 静岡県立大学 鈴木康夫	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)：	
<p>研究概要：ウイルスの変異に関する基礎研究を基に、天然のウイルス受容体（特殊なシアロ糖鎖およびその誘導体であることをすでに解明している）を模擬した人工受容体素材を創製し、これによるウイルスの変異を克服した次世代の抗インフルエンザ薬、ワクチン、インフルエンザウイルスの超簡単・迅速診断薬等に関する研究を行う。</p>	

No.2	事業名： 創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業
資金を出す機関： ヒューマンサイエンス振興財団	
予算規模：	
事業期間： 平成15年度	
もともになった研究シーズ： インフルエンザウイルスの変異機構の解明と変異を克服した次世代抗インフルエンザ薬の開発	
研究者(所属、役職)： 静岡県立大学 鈴木康夫	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)：	
<p>研究概要：ウイルスの変異に関する基礎研究を基に、天然のウイルス受容体（特殊なシアロ糖鎖およびその誘導体であることをすでに解明している）を模擬した人工受容体素材を創製し、これによるウイルスの変異を克服した次世代の抗インフルエンザ薬、ワクチン、インフルエンザウイルスの超簡単・迅速診断薬等に関する研究を行う。</p>	

No.3	事業名： 創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業
資金を出す機関： ヒューマンサイエンス振興財団	
予算規模：	
事業期間： 平成16年度～平成18年度	
もともなった研究シーズ： インフルエンザウイルスの変異機構の解明と変異を克服した次世代抗インフルエンザ薬の開発	
研究者（所属、役職）： 静岡県立大学 鈴木康夫	
もともなった R S P 活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関（企業含む）：	
<p>研究概要：ウイルスの変異に関する基礎研究を基に、天然のウイルス受容体（特殊なシアロ糖鎖およびその誘導体であることをすでに解明している）を模擬した人工受容体素材を創製し、これによるウイルスの変異を克服した次世代の抗インフルエンザ薬、ワクチン、インフルエンザウイルスの超簡単・迅速診断薬等に関する研究を行う。</p>	

#### （5）都道府県単独事業（その他）

No.1	事業名： 課題提案型研究助成事業
資金を出す機関： スズキ財団	
予算規模：	
事業期間： 平成15年度～平成16年度	
もともなった研究シーズ： 気相拡散プロセスによるキャパシタ用複合電極新設計法の開発と評価	
研究者（所属、役職）： 静岡大学 岡島敬一	
もともなった R S P 活動： 育成試験平成12年度	
参加研究機関（企業含む）： 静岡大学 須藤雅夫	
<p>研究概要：二次電池はエネルギー密度が高いもののパワー密度が低い。また、充放電サイクル寿命にも不満がある。一方、キャパシタはパワー密度、サイクル寿命が優れているが、エネルギー密度が足りない。キャパシタの長所を生かしたままエネルギー密度を向上させることを目標とする。擬似容量の付加によりそれをめざす。</p>	

No.2	事業名： 産学共同研究開発委託事業
資金を出す機関： (財)しずおか産業創造機構	
予算規模：	
事業期間： 平成14年度	
もともになった研究シーズ：	
研究者(所属、役職)： 浜松医科大学 稲川正一	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成12年度	
参加研究機関(企業含む)： (株)アールテック	
<p>研究概要：最近の医療画像技術では、3D-CTAngiography、3D-MR、Rotational Angiography等で患者の個別血管三次元情報を日常的に得られるようになった。近年では従来の外科手術に依らず経皮的に血管内にカテーテルを挿入し、動脈瘤内へのコイル塞栓術、動静脈奇形の塞栓術などが行われるようになった。これらの治療のためには術前に病的血管の大きさや形状、血流などを把握することが重要である。それに対し現状では、得られた三次元情報を二次元平面上のモニターや写真で検討している。得られた三次元情報を基にして、立体模型を製作し医師の治療前における検討および治療方法の患者に対する説明と同意に、安価な立体模型を提供しようとするものである。</p>	

No.3	事業名： 袋井市助成金事業
資金を出す機関： 袋井市	
予算規模：	
事業期間：	
もともになった研究シーズ： 環境調和型酸化反応の開発とその応用	
研究者(所属、役職)： 静岡理工科大学 桐原正之	
もともになったR S P活動： 育成試験 平成13年度	
参加研究機関(企業含む)：	
<p>研究概要：今までの酸化反応は有毒な酸化剤を大量に使用したものが環境に大きな負荷をかけてきた。酸化反応を触媒反応とし、共酸化剤としては空気中に大量に存在する酸素を利用することにより負荷を低減できると考えられる。バナジウム触媒を利用した酸素酸化反応の開発の基礎研究を行ってきたが、これまで蓄積してきた知見を基に主として応用研究を展開する事を目的とする。</p>	



No.4	事業名： 中小企業研究開発事業
資金を出す機関： (財)しずおか産業創造機構	
予算規模：	
事業期間： 平成16年度	
もともなった研究シーズ： 大規模災害対策用人工呼吸機器の開発	
研究者(所属、役職)： 東海大学 金井直明	
もともなったR S P活動： 育成試験 平成14年度	
参加研究機関(企業含む)： (株)北里サプライ	
<p>研究概要：大規模災害時に初動5分間の人工呼吸を行う事を目的とした。</p>	

No.5	事業名： 地域イノベーション促進研究開発事業
資金を出す機関： (財)しずおか産業創造機構	
予算規模：	
事業期間： 平成14年度～平成15年度	
もともなった研究シーズ： 血液流動性の定量的評価装置の開発	
研究者(所属、役職)： 東海大学 榊原学	
もともなったR S P活動： 育成試験 平成14年度	
参加研究機関(企業含む)：	
<p>研究概要：血流の計測方法の開発・脳梗塞など血流による影響が考えられるシミュレーションを試みた。</p>	

No.6	事業名： 地域イノベーション促進研究開発事業
資金を出す機関： (財)しずおか産業創造機構	
予算規模：	
事業期間： 平成16年度～平成18年度	
もともになった研究シーズ： 食用キノコからの機能性物質の探索とその応用展開	
研究者(所属、役職)： 静岡大学 河岸洋和	
もともになったRSP活動： 育成試験 平成15年度	
参加研究機関(企業含む)： 社団法人発明協会 静岡県支部	
<p>研究概要： 1) ヤマブシタケからアルツハイマーβアミロイド毒性抑制物質を探索する。ヤマブシタケを食用として継続的に摂取する痴呆症患者に改善傾向が認められている。</p> <p>2) キノコから新規糖結合特異性を有するレクチンを探索する。多種のキノコのレクチン活性スクリーニングで、新規性の高い糖結合特異性をもつものが見いだしている。</p>	